



## 東京外国語大学 国際学術戦略本部開設のご挨拶

宮崎恒二

東京外国語大学・理事・副学長  
国際学術戦略本部長

2005年9月1日、国立大学法人東京外国語大学は国際学術戦略本部 (Office for International Academic Strategy、略称OFIAS-TUFS) を開設しました。大学の国際化を促進するための文部科学省の公募に採択されたモデル事業の一環として、OFIAS-TUFSは大学全体の国際的な展開戦略を策定するとともに、海外拠点の創設・運営、海外機関とのリエゾン、国際的な人的ネットワークの形成にあたります。また、海外からの研究者の受け入れ体制を整備するなどして、教員、学生の交流事業を推進しつつ、多言語・多文化共生キャンパスの実現に寄与するほか、大学の実施する国際貢献事業の支援を行います。これらの活動を通じて、国際学術活動の分野で、本学のみならず、様々な場で活躍できる人材を育成します。

東京外国語大学は、世界のほぼ全域にわたる言語、文化、社会の研究・教育を担うユニークな大学です。その研究・教育活動のすべてが、国際性を帯びるといっても過言ではありません。とりわけ、アジア・アフリカをはじめとする諸地域に関する研究活動、言語教育研究の分野などでは、多くの優れた研究者を擁して、活発な研究・教育面での交流が行われてきました。また交流協定機関は、現時点で世界35カ国あまり、75機関におよび、研究者や数多くの留学生を受け入れ、送り出しています。

本学のグランドデザインにおいて、三つの機能を果たす大学であることを宣言しています。

1. 世界諸地域の言語・文化・社会に関する高等教育の拠点
2. 世界諸地域の言語・文化・社会に関する学際的かつ先端的な研究拠点
3. 日本語教育研究の世界的な拠点

大学ばかりではなく、日本全体が広く世界に開かれようとしている今日、キャンパスで数十の言語が飛び交い、世界の多様性を体現する東京外国語大学は、急速に進展しつつある多言語・多文化共生社会における、今後のあるべき研究・教育、組織運営のモデルの一つを示しうるのではないかと自負しています。

東京外国語大学国際学術戦略本部は、このような本学の伝統と現実を基盤としつつ、より一層の戦略性、機動性をもった国際的な活動と、国際化を主導する人材の養成に取り組むことによって、21世紀の地球社会と対話し、行動する東京外国語大学の実現に向かって歩んでいきます。

# 東京外国語大学の国際戦略

東京外国語大学は、世界のほぼ全域にわたる言語、文化、社会の研究・教育を担うユニークな大学です。特に、アジア・アフリカをはじめとする諸地域における研究活動を活発に展開しています。また、日本語教育研究を重点的に担う大学として、海外諸機関との連携を強力に進めています。

これらの実績にもとづき、東京外国語大学では、国際学術戦略本部 (OFIAS-TUFS) を設置。長期的な視野から地球社会との対話を行い、行動することを目的に、以下の7つの国際戦略を推進します。

## 戦略1

### 大学の個性を生かした海外研究拠点の設置と整備

重点的に取り組む研究領域において、海外研究拠点を設置し、研究活動を推進するとともに、海外の研究拠点を、研究者が、広く共有する体制を整備する。

- ◆ベイルートなど海外研究拠点における重点研究プロジェクトの推進  
ベイルートなどに設置した海外研究拠点を中軸に、重点的に取り組む中東・イスラーム研究教育プロジェクトにもとづく研究を推進する。
- ◆ベイルートなど海外研究拠点の研究者による共同利用の促進  
ベイルートなどの海外研究拠点を、全国共同利用研究所であるアジア・アフリカ言語研究所の海外ブランチとし、国内外の研究者による共同利用を促進する。
- ◆ロンドン研究拠点における共同研究の推進とワークショップなどの開催  
21世紀COEプログラム史資料ハブ研究拠点(C-DATS)が設置したロンドン大学東洋・アフリカ研究学院(SOAS)内の研究拠点を継続的に活用する。共同研究、ワークショップなどを開催。国際的な活動を展開しうる次世代研究者の養成を進める。

## 戦略2

### 国際コンソーシアムの形成

研究・教育分野を共有する海外諸機関と連携、世界的な水準での研究・教育活動を行う。

- ◆アジア・アフリカ研究・教育コンソーシアムの形成  
アジア・アフリカ諸地域の言語、文化、社会に関する研究・教育を行う海外の諸機関との研究者の交流、共同研究を推進する。
- ◆日本語教育研究ネットワークの形成  
海外の日本語教育機関と連携し、日本語教育の開発を進め

るとともに、積極的なアドバイジング活動を行い、柔軟なネットワークを形成する。

- ◆平和構築・紛争予防研究・教育ネットワークの形成  
海外の諸機関、諸プログラムと連携し、世界的レベルの専門家養成を行う。
- ◆史資料の共有基盤の形成  
アジア・アフリカの歴史ならびに諸言語の資料に関する協定を締結した諸機関と、おたがいが構築した史資料を共有する体制を整備し、共同研究、連携教育を推進する。

## 戦略3

### 「TUFSグローバル・コミュニティ」による海外事業の展開

世界各地に広がる卒業生、修了生、留学生、外国人研究員・教員などをネットワーク化し、海外事業展開の協力体制を構築する。

- ◆TUFSコミュニティの世界的展開  
世界各地に広がる東京外国語大学の卒業生、修了生を「TUFSアンソエイツ」として組織する。その中で中心的役割を果たす「TUFSアンバサダー」の下で、世界各地に連絡事務所「TUFSブランチ」を設置し、研究・教育交流の拠点とする。
- ◆TUFS研究フェローズ  
これまでに在籍した外国人の研究者をネットワーク化し、TUFSコミュニティの海外での研究活動を支援する。

## 戦略4

### 研究・教育活動との連携による国際協力・社会貢献の推進

世界諸地域に関する研究の成果と実績を基礎とし、多言語対応の国際協力・社会貢献を推進する。

- ◆文字文化財の復興支援事業の推進  
史資料ハブ拠点の活動を拡大し、アフガニスタン文字文化財支援事業、インドネシア・アチェ文化財復興支援事業などの文字文化財の復興支援事業を推進する。
- ◆地域社会の多言語・多文化共生への支援  
多言語の使用、多文化の理解を背景とした学校教育、生活情報提供などへの支援を通じて、日本の地域社会における国際化への対応に貢献する。
- ◆平和構築・紛争予防プログラムの強化  
大学院におけるプログラムを通じて、世界諸地域において、平和と社会貢献に寄与する人材を養成する。
- ◆国際協力インターンシップ  
国際戦略本部事業のインターンシップを関連カリキュラムの中に位置づけ、国際学術業務に従事する専門家を養成する。



